

## 自分の考えを伝えようとする生徒を育成する 外国語科学習指導

### 一言語活動の工夫と My Expression Book の活用を通してー

グローバル化が進む世の中で、英語でコミュニケーションを取る必要性がますます高まっている。平成31年度に実施された全国学力・学習状況調査では、「話すこと」の領域の正答率が他の領域よりも低くなっており、特に「やり取り」を踏まえた正答率に課題があった。また、学習指導要領でも、「話すこと[やり取り]」が新設され、言語活動の充実が求められている。

そこで本研究では、生徒が英語で話す機会の確保のための言語活動を工夫、生徒の英語を話す意欲を向上させるための生徒が自分の考えを英語で表現したいと思えるタスクの設定について究明を試みた。

具体的には、言語活動の工夫では、帯活動と言語活動を関連付け、同じタスクの活動を複数回行った。タスクに関しては、自己表現力を高める四つの要素を基に設定した。また、語彙や、やり取りをする際の表現を習得させるために、My Expression Book を活用した。

その結果、生徒が英語を話す時間や機会を十分に確保することができ、積極的に対話を続けようとする姿が見られた。また、My Expression Book で語彙や表現を蓄積し、対話を広げようとしていた。このことから、言語活動の工夫と、My Expression Book の活用は、英語で自分の考えを伝える意欲を向上させることに有効であるとわかった。

福岡市教育センター長期研修員  
福岡市立壱岐中学校 西澤 彩野

## 1 主題について

### (1) 主題設定の理由

#### ① 国や社会の動向から

グローバル化が進む世の中で、コミュニケーションに使用される言語としての英語の影響力はますます広がってきている。岡ら（2011）は近年の急速なグローバル化を受けて、これまでの「ネイティブ vs. ノンネイティブ」という形のコミュニケーションではなく、「非母語話者同士の国際コミュニケーションツールとしての英語の役割を考えると、もはやネイティブ・スピーカーの基準だけではなく、違う文化背景をもった者同士の間で、異文化の壁をこえて相互理解を達成することが求められるのである」としており、ノンネイティブ同士のコミュニケーションツールとしての英語の必要性が高まってきている。現在福岡市は、アジアに開かれた都市として開発が進んでいる。中学生が社会に出るころには、今以上に英語でコミュニケーションを取ることが求められ、英語を学び続けることが必要となってくる。

中央教育審議会答申（2016）では、児童生徒は「判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述べることに課題」があると示されている。中学校外国語科においては、互いの考えや気持ちなどを外国語で伝え合う対話的な言語活動の充実を重視するとある。さらに「中学校学習指導要領解説 外国語編」（2018）によると、これまでの外国語教育は、知識面に重点が置かれ、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した言語活動が十分ではないことに課題があるとしている。特に「やり取り」「即興性」を意識した言語活動や複数の領域を統合させた言語活動が十分ではないことが示されている。

また「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」（2019）では、【資料 1】のように「話すこと」領域が他の領域よりも低い結果となっている。

|           |       |
|-----------|-------|
| 聞くこと      | 68.3% |
| 読むこと      | 56.2% |
| 書くこと      | 46.4% |
| 話すこと(参考値) | 30.8% |

【資料 1】平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査  
領域別正答率

特に、与えられたコミュニケーションの場面において、即興でやり取りをする問題においては、正答率が 10.5%にとどまった。また、「やり取りを踏まえた内容を解答しているが、コミュニケーションに支障をきたすような語や文法事項等の誤りがあるもの」が 6.5%、無回答が 20.7%であった。同調査では、「不適切な間を置かずに関わりと事実や意見、気持ちなどを即興で伝え合う力を身に付けさせる必要がある」としている。

さらに、大城（2008）は、「日本の中学生は知らない単語や知らない表現があると、そこでコミュニケーションを中断

してしまうという傾向がある」と述べており、中学生段階では伝えたい語彙や表現がわからないと、コミュニケーションを成立することができないことを示している。

これらのことから、与えられたコミュニケーションの場面に対応した適切な内容を伝える力が十分に育成されていないこと、言語材料が不足するとコミュニケーションが止まってしまうことが課題として挙げられる。

#### ② 福岡市の教育の課題から

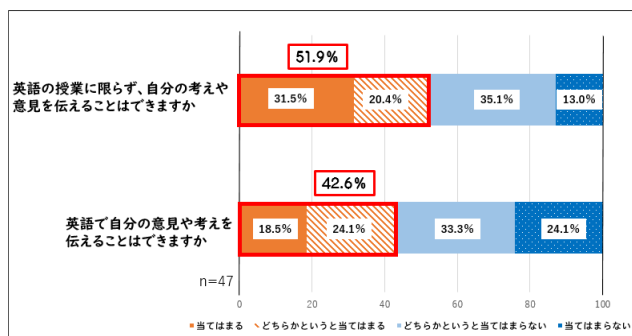
福岡市は、新たな時代に対応した取組みを進めていくために「第 2 次福岡市教育振興基本計画」（2019）を策定した。この計画で福岡市はめざす子ども像を「やさしさとたくましさを持ち ともに未来を創り出す子ども」としている。これは中学校外国語科においては、グローバル社会で生き抜くために、様々な多様性に対処でき、恐れずにコミュニケーションを取ることができる子どもと解釈できる。英語で自分の考えを相手に伝え、相手のことも理解できる子どもを育成することが必要となってくる。さらに施策の一つに「グローバル社会を生きるキャリア教育の充実」を掲げており、グローバル人材を育成すること、英語教育を推進することを主な取組み内容に挙げている。

「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」の学校質問紙では、「調査対象学年の生徒に対する英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか」という質問に対して、「当てはまる」と答えた学校が福岡市は 14.5%で、全国の 18.1%よりも低い結果となっている。また、令和 3 年度の同調査の学校質問紙では、「調査対象学年の生徒に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う（対話的な）活動に取り組みましたか」に「当てはまる」と答えた学校が福岡市は 33.3%と平成 31 年度に比べて改善されたが、未だ全国の 45.0%よりも低い傾向にある。この結果から事前に準備をして発表させる授業を行っている学校は多いが、「やり取り」を重視した対話的な活動があまり行われていないことがわかる。この結果を受けて、「福岡市英語教育改善プラン」（2021）では、学習指導要領の全面実施に向けて「インタラクション（やり取り）を重視した授業」をさらに推進するよう示している。よって、対話を重視した言語活動を充実させることが喫緊の課題となっている。

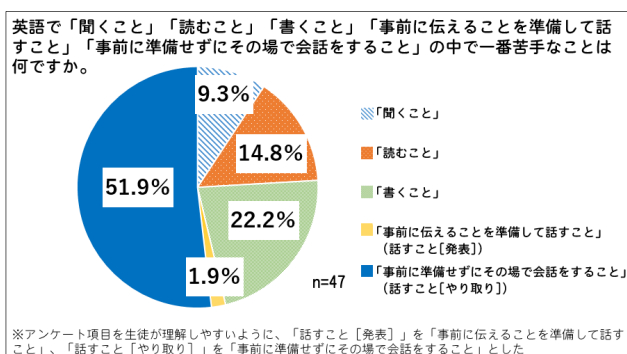
#### ③ 生徒の実態から

事前に授業実践予定の 1 年生 47 名を対象に英語学習に対するアンケートを実施した。

「英語の授業に限らず、自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対して、肯定的な回答をした生徒は【資料 2】に示すように 51.9%であった。また、「英語で自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対しては肯定的な回答が 42.6%であった。「自分の意見を伝えるのが苦手」「意見はあるが、英語で何と言っているかわからない」「自分の話した英語が、伝わっているか自信がな



【資料2】事前アンケートの結果①



【資料3】事前アンケートの結果②

い」という記述より、意見はもっているものの、英語での表現方法や、自信のなさから自分の考えや意見を伝えることを苦手とする生徒が多いことがわかる。

また、英語の4技能5領域に関するアンケートでは、【資料3】のように、「話すこと（やり取り）」を苦手とする生徒が51.9%いた。このことから、対話などで即興的に話すことに苦手意識をもつ生徒が多いことがわかる。

以上3点の理由から、対話を中心とした言語活動を充実させ、自分の考えを伝えようとする生徒を育成することが必要であると考え、本主題を設定した。

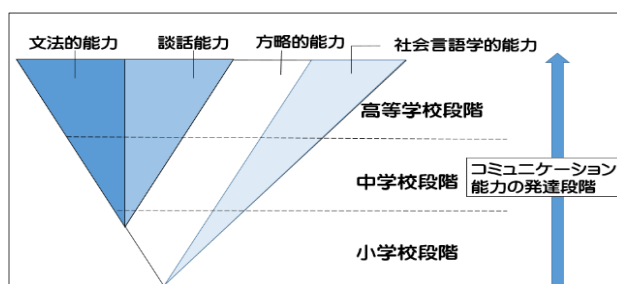
## (2) 主題及び副主題の意味

### ① 自分の考えを伝えようとするとは

自分のもつ語彙や表現を駆使して、伝えたいことを自分なりに英語で表現することである。伝える際には、ジェスチャーや表情などの非言語の部分も使用する。田中ら（2003）は、Canale（1983）が示したコミュニケーション能力の構成要素に即して、自己表現力の構成要素を捉え、自己表現力の下位能力を【資料4】のように示した。

|          |                         |
|----------|-------------------------|
| 文法的能力    | 相手に伝えたいことを正確に表現できる力     |
| 談話能力     | 伝えたいことを一貫してまとめて表現できる力   |
| 社会言語学的能力 | 場面や相手との関係を理解して適切に表現できる力 |
| 方略的能力    | 行き詰った時に何とかして表現できる力      |

【資料4】自己表現力の下位能力（田中ら、2003）



【資料5】コミュニケーション能力の発達段階（大城、2008）

また、大城（2008）は、この四つの能力の発達段階について、【資料5】のように、日本の外国語教育のモデルを発達段階ごとに示している。このモデルから、「伝えようとする」を以下のように考える。小学校外国語科では、限られた言語材料で「何とかして伝えたい」という意欲をもたせ、ジェスチャーなどの非言語による表現方法も含めて伝える「方略的能力」の向上をめざしている。また、教科化によって求められる既習の言語材料と新出の言語材料を組み合わせる「文法的能力」も意識されることとなった。【資料5】によると、中学校段階では四つの能力をバランスよく向上させることをめざしているが、中学校1年生段階では、小学校で培われた「方略的能力」を基本とし、他の三つの能力を育成する。「方略的能力」については、小学校段階では、非言語によるものが主になっていたが、中学校段階では語彙や文法の習得によって獲得された文法的能力を活用して、言い換えることをめざす。

### ② 言語活動の工夫とは

生徒が「伝えたい」という必然性や具体性をもつことのできるタスクの設定と、自己表現ができるようになるような1単位時間の学習過程を設定することである。胡子（2022）によると外国語科における言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちなどを伝え合う」活動を意味するとしている。本研究における言語活動も、英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動と定義する。また、田中ら（2003）は自分の思いや考えを伝える自己表現力を高めるための指導として、言語活動の工夫において、【資料6】のような「必然性」、「具体性」、「自己関連性」、「自由度」の四つの要素が活動に加わって初めて、生徒の表現意欲を高めることができるとしている。本研究では、この四つの要素を基にタスクを設定する。

|       |                                             |
|-------|---------------------------------------------|
| 必然性   | 生徒が自然に表現してみたいと思うような場面・状況をつくること              |
| 具体性   | 生徒に活動内容を具体的にイメージさせる活動に取組ませること               |
| 自己関連性 | ある事柄が生徒自身のことに関連する程度のこと                      |
| 自由度   | 答えが一つではなく、生徒自身の意思や判断によって主体的に表現させる部分を取り入れること |

【資料6】自己表現力を高める四つの要素（田中ら、2003）

1 単位時間の学習過程の設定とは、帯活動と言語活動を関連付け、対話活動を繰り返し行うことである。学習指導要領によると、言語活動の際に「即興で話したり書いたりする活動を行い、その過程で相手からフィードバックを受けたり、同じタスクを相手や役割を変えながら複数回繰り返しながら学びを深めていくことも重要である」としており、言語活動を複数回行うことの重要性を示唆している。よって、本研究では帯活動と言語活動を関連付け、1 単位時間で言語活動を複数回位置付けることとする。

### ③ My Expression Book とは

自分が言いたかった表現や、やり取りの際に使用できる表現を書き溜め、語彙や表現を増やすための表現集である。自分に必要な語彙や表現を書き溜めることで、自分だけの表現集を作成することができ、自己表現をする際の語彙や表現を増やすことをねらいとする。今回は、Google スプレッドシート（以後スプレッドシート）で作成する。スプレッドシートでは、生徒が視覚的に学習状況を確認できるように、チェックボックスを設けたり、条件付き書式を設定したりすることが可能である。また、IMPORTRANGE 関数を使用することで、新たに生徒のシートに表現を追加したいときに一括で追加することができる点でも、スプレッドシートが適切であると考え、使用する。

### ④ My Expression Book の活用とは

自分に必要な語彙や表現を集めた表現集を、必要に応じて使用し、語彙や表現の幅を広げることである。書き溜めておいた語彙や表現を、実際の活動の際に使用することで、語彙や表現の幅を広げることができ、ねらいとする。主な使用場面としては、後述する学習過程の②Production Time において、①Communication Time 1 で言えなかった表現や相づちなどを調べ、My Expression Book に入力し、③Communication Time 2 でのやり取りの際に使用することを想定する。【資料 7-1】【資料 7-2】は My Expression Book の概要である。「表現集」のシートと「単語帳」のシートに分けている。【資料 7-1】は相づちや、聞き返しの表現など主に対話をつなげる役割をする表現をまとめた「表現集」のシートである。【資料 7-2】は自分が調べた語彙や表現を書き溜めていく「単語帳」のシートである。

|    |            |              | 1 回目         | 2 回目                                | 3 回目                                | 4 回目                                | 5 回目                                | 見なくても大丈夫!                           |
|----|------------|--------------|--------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 1  | あいづち・つなぎ言葉 | Is that so?  | そうなの?        | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 2  | あいづち・つなぎ言葉 | I see.       | わかりました。      | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 3  | あいづち・つなぎ言葉 | Uh-huh.      | うんうん。        | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 4  | あいづち・つなぎ言葉 | Let me see.  | ええと。         | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            |
| 5  | あいづち・つなぎ言葉 | Well,        | ええと。         | <input checked="" type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input checked="" type="checkbox"/> |
| 6  | あいづち・つなぎ言葉 | Ah,          | あー。          | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 7  | あいづち・つなぎ言葉 | You know,    | 知っていると思うけど。  | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 8  | あいづち・つなぎ言葉 | Me, neither. | 私もそうではありません。 | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 9  | あいづち・つなぎ言葉 | Oh, I see.   | なるほど。        | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |
| 10 | あいづち・つなぎ言葉 | Right.       | それとおり。       | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            | <input type="checkbox"/>            |

【資料 7-1】 My Expression Book （表現集）

| Date    | Topic       | Words & Phrases | Paraphrase (言い換え) |
|---------|-------------|-----------------|-------------------|
| 12/2 家族 | 言えた!        | カッコいい           | cool handsome     |
|         | 友達表現を参考にした! | 子どもが2人いる        | have two children |
|         | 自分で調べて言った!  | 虫               | insect            |

【資料 7-2】 My Expression Book （単語帳）

## 2 研究の目標

自分の考えを伝えようとする生徒を育成するために対話的な言語活動の工夫と、My Expression Book を活用した外国語科学習指導を究明する。

## 3 研究の仮説

外国語科学習指導の際に、自己表現力を高める四つの要素を踏まえたタスクの設定や、1 単位時間の中に帯活動と関連した対話活動を複数回設定し、My Expression Book を活用した言語活動を行えば、自分のもつ語彙や表現で、自分の考えを伝えようとする生徒を育成することができるであろう。

## 4 研究の構想

### (1) 内容

本研究では、自分のもつ語彙や表現を駆使して、伝えたいことを自分なりに表現して自分の考えを伝えようとする生徒を育成する外国語科学習指導の在り方について、言語活動の工夫と My Expression Book の活用を通して明らかにする。

自分の考えを伝えようという意欲が高まっていく生徒の姿を、以下のように捉える。まず、生徒は自分が伝えたいことが英語で言えないことを「把握する」。そして、言いたいことを自分で調べたり、友達と対話したりすることで、自分のもつ語彙や表現で言えることに「気付く」。さらに、新しい表現を学び、練習することにより、自分の考えを英語で伝えることに対して「自信をもつ」ことができ、伝わったという成功体験や「達成感を味わう」ことから、自分の考えを伝えようとする生徒になることである。

### (2) 手だて

#### ① 言語活動の工夫

- ・1 単位時間の学習過程の設定

【資料 8】のように帯活動と言語活動を関連付け、複数回言語活動を行う。この対話活動を本実践では Communication Time とする。

- ・タスクの工夫

自己表現力を高める四つの要素を踏まえたタスクを設定する。

#### ② My Expression Book の活用

- ・生徒自身が使いたい語彙や表現を選択、蓄積
- ・生徒が活用場面、時間を選択可能

| 1 単位時間の学習過程           | 活動内容                                                   |
|-----------------------|--------------------------------------------------------|
| ①Communication Time 1 | この時間のタスクを確認し、言語活動への見通しをもたせ、タスクに関する簡単な言語活動をし、自分の課題を把握する |
| ②Production Time      | ①でタスクに向けた課題に気付き、③に向けて、必要な語彙や表現を習得する                    |
| ③Communication Time 2 | 習得した表現を使って言語活動をし、活動を振り返る                               |

【資料 8】 1 単位時間の学習過程と活動内容

### (3) 検証の方法

#### ① 検証内容

- 自己表現力を高める四つの要素を踏まえたタスクの設定は、自分の考えを伝えようとする意欲の向上に有効であったか。
- 1単位時間の中で言語活動を複数回設ける学習過程を設定することは、生徒が英語で自分の考えを伝えることに有効であったか。
- My Expression Book は、生徒が自分の考えを伝えるときに語彙や表現を広げることにも有効であったか。

#### ② 検証授業

- 1年生（外国語科） 6月～7月
- 1年生（外国語科） 11月～12月

#### ③ 検証方法

- 実践前後のパフォーマンステストの実施、変容分析  
自分の考えを適切に相手に伝えようとする意欲が上がっているか、対話を続けようと、様々なつながり言葉や、対話を広げるための質問などができるようになったかについての変容を見取る。
- 実践前後の生徒アンケートから情意面の変容分析
- 抽出生徒の変容分析（【資料9】を参照）

##### 生徒A

- ・英語の成績は低位
- ・事前アンケートでは、英語の授業について4段階中の3「どちらかといえば好き」と答えている。
- ・「英語で自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対して4段階中の1を選んでおり、理由としては「英語が難しいからです」と答えている。

- ・事前テストにおいて、自己紹介の際に、自分の名前を言った後は何も言えずに終わっていた。

##### 【分析する観点など】

事前テストではほとんどNSと対話ができずにいたので、実践を通して授業中の様子や、事後テストにおいて積極的に対話ができているかどうか、発話量、振り返りの記述などから英語で自分の意見を言おうとする姿や意識の変容を見取る。

##### 生徒B

- ・英語の成績は中位
- ・事前アンケートでは、英語の授業について4段階中の1「好きではない」と答えている。
- ・自分の意見を伝えることに関する質問項目では、日本語でも英語でも1の「好きではない」を選んでおり、理由としては「もしかしたら間違っているんじゃないかとか不安で発表できない」と答えている。
- ・事前テストにおいて、自己紹介とNSからの質問に対して文章で答えることができていた。ただ、終始自信がなさそうで、アイコンタクトをあまり取ることができていなかった。

##### 【分析する観点など】

事前テストでは英語を話すことに対して消極的であったことがわかる。ただ、英語で応答をすることはできている。実践を通して、自信をもって自分の意見を言うことができるようになったかどうかを授業中の姿や事後テストにおいて見取る。

##### 【資料9】抽出生徒選定の理由

## 5 研究構想図



## 6 研究の実際 実践1（7月実施）

### 第1学年

単元名「インタビューをして『夏の〇〇Best3』を伝えよう」

#### (1) 実践1のねらい

##### ① 研究のねらい

本実践では、以下の3点についての有効性を明らかにする。

- ・タスクの設定
- ・1単位時間時間の中に、Communication Time（言語活動）を2回設けること
- ・My Expression Bookの活用

##### ② 単元の目標

友達の意見や感想を得るために、夏に関するインタビュー活動の中で、適切な質問や応答を通して聞き取ったことをまとめ、伝え合うことができる。

##### ③ 単元計画（8時間）

| 学習活動                             | 配時 |
|----------------------------------|----|
| 1 学習課題を確認し、グループで調査したいことについて話し合う。 | 1  |
| 2 アンケートを取るために必要な語彙や表現を習得する。      | 4  |
| 3 級友にアンケートを取り、情報を整理する。           | 2  |
| 4 プレゼンテーションを行い、内容について質疑応答をする。    | 1  |

#### (2) 実際と考察

##### ① タスクの設定

###### ア 実際

タスクは、【資料6】（P2）の「自己表現力を高める四つの要素」に照らし合わせて設定をした。

- ・単元全体のタスク

「インタビューをして『夏の〇〇Best3』を伝えよう」

【資料10】は、【資料6】（P2）で示した「自己表現力を高める四つの要素」と今回設定した単元のタスクとの関連性を示したものである。

また、【資料11】は各班が設定したタスクであり、班で話し合って設定した。

|       |                                          |
|-------|------------------------------------------|
| 必然性   | 生徒が英語で表現してみたいと思えるために最終的にNSに伝えるという課題を設定した |
| 具体性   | 生徒もイメージがしやすい活動として、インタビューを設定した            |
| 自己関連性 | 生徒自身の回答を求めるものとした                         |
| 自由度   | 生徒自身の意思や判断によって主体的に表現させるものとした             |

【資料10】単元のタスクと四つの要素との関連性

|                  |             |
|------------------|-------------|
| ・夏に聴きたい歌         | ・夏休みに行きたい場所 |
| ・夏祭りで食べたいもの      | ・夏によく使う家電   |
| ・好きなかき氷の味        | ・夏にしたいこと    |
| ・夏の花といえば         | ・夏休みに後悔したこと |
| ・バーベキューで最初に食べるもの |             |

【資料11】各班が設定したタスク

#### イ 考察

生徒の取組みの様子やアンケートで「頑張ってNSの先生に自分たちの作ったものを英語で説明することができた（必然性）」「インタビューをして友達の意見が具体的に知れた（具体性）」「自分がしたいことなどを考えて言うことができた（自己関連性）」「自分が知りたいことを調べることができた（自由度）」などという記述があったことから、四つの要素を踏まえた活動になっていたことがわかる。四つの要素を踏まえたタスクを設定したことは、成功体験から伝えることに自信をもち、達成感を味わうことができたと考えられる。ただ、自由度を重視したあまり、使用する単語が難しくなってしまう、活動に参加しにくく感じた生徒がいたため、タスクを設定させる際は難易度の調整が必要である。

##### ② 1単位時間の学習過程の工夫

###### ア 実際

第6時では、「友達が週末することについて、たずねたり答えたりして、友達のことについて知ろう」という言語活動のテーマで行った。

まず、Communication Time1において英語での質疑応答に慣れさせるため“What do you～？／I want to～.”を使った対話活動を行わせた。話題を“What do you want to do on weekend?”とし、“I want to～.”で答えることができるようにした。モデルを示すために、最初に教師と生徒で対話を行い、簡単なやり取りをした。その際、対話を続けるときの表現や、相づちの表現（“That’s good.”や“How about you?”など）を取り入れて対話した。そして生徒同士で対話をさせた。対話の時間を1分間とし、やり取りをさせた。【資料12】のようにS2は自分が言いたい単語がわからず、日本語やジェスチャーを使って伝えようとしていた。対話をしていた相手であるS1も、ペアが言いたい表現がわからず、そこで時間になり対話は終了した。

#### 【Communication Time 1】

S1: What do you want to do on weekend?

S2: I dance with my friend.

S1: What do you want to do on weekend?

S2: Uh...I want to do...（ジェスチャーをする）do book...  
「読む」って何て言うんだろう。

S1: book...「読む」って何て言うんだろうね。  
答え方わからないね。

S2: I do....（ジェスチャーをする）...後で調べてみる。

【資料12】Communication Time1における生徒の対話

次に Production Time では Communication Time1で表現することができなかった語彙や、コミュニケーションを円滑に進めるための表現方法、表現の幅を広げるための文法の確認をし、Communication Time2に向けて練習した。

Communication Time1において英語で表現することができなかった単語は教科書や翻訳サイトで検索させ、My Expression Book に記入させた。新出文法に関しては、新しい表現に慣れさせるために、繰り返し練習させた。まず、“What do you want to do after school?”の質問に対しての答えとしてどのようなものが考えられるかをグループで考えさせ“I want to～.”で答える練習をした。生徒は“I want to do my homework.”や“I want to play basketball.”などと練習していた。

Communication Time2においては Communication Time1とペアを変えて行った。そして Communication Time1と同じ話題である“What do you want to do on weekend?”で行った。本実践では Communication Time1と2で同じ話題を使い、2回目より対話や情報を深めたり、広げたりしていくことをねらいとした。また、時間を1分から1分30秒に増やし、対話を続けさせた。時間が増えるということで、「不安だ」と発言していた生徒もいたが、Production Time で練習したことや、My Expression Book で自分が選んだ表現を使って対話を続けることを指示した。生徒は、つなぎ言葉や相づちなどをもう一度確認し、活動に移った。Communication Time1で「読む」という単語がわからなかった生徒S2が別のペア（S3）と【資料13】のような対話をしていた。

対話の中で、【資料13】の\*1～\*3のように、Me too.やOh, good.などの相づち表現や、“Are you a baseball fan?”などの既習事項を使った質問をしており、対話を続けようとする姿を見取ることができた。生徒の振り返りには「もっと話したかった」「時間が足りなかった」と記述している生徒もいた。対話を終えた後に、ペアで活動の振り返りをさせた。英語が通じていたかどうかや、対話を続けようとしていくことができていたかなどを話し合わせた。ペアでの振り返りをした後は、個人で活動の振り返りをさせた。

## イ 考察

Communication Time1において、あるペア（以下S1とS2）は、【資料12】のように対話が1往復ただけで、相づちなどを使ったやり取りができていなかった。また、自分が表現したい単語がわからずに対話が止まっていたペアもいた。ここでは自分が表現したいことが、英語で表現できないことを把握させることを目的としていたため、この活動は有効であったと考える。この時点でS2はジェスチャーを使って自分が言いたいことを表現していたが、S2が「後で調べる」と発言していたことから、「英語で言いたい」という意欲も高めることができたと考える。

Production Time では、「Communication Time2の前に語彙や表現をたくさん練習したことで、自信がついた」という振り返りの記述があったことから、この活動は有効であったことがわかる。

Communication Time2において、生徒の振り返りに、「最初にやった時は、うまく言えなかったけど、2回目では相づちなどを言って対話が続いた」「相手に自分の言いたいことが伝わって自信がついた」「自分の英語が伝わって嬉しかった」という記述があったことから、同じ話題で言語活動を2回行ったことは自分の考えが英語で言えないことを把握し、複数回練習することを通して英語で伝えることに自信をもち伝わったという成功体験から達成感を感じたことから有効であったと考える。

## ③ My Expression Book の活用

### ア 実際

第6時の“What do you～?”“I want to～.”の対話活動で使う表現を調べる際の Production Time で My Expression Book を活用した。

S2は Communication Time1でわからなかった、「読む」という単語を教科書で調べ、“read”と単語帳に記入していた。また、Communication Time2で相づちの表現を使おうと単語帳に“That’s good.”や“I see.”と記入していた。

| 【Communication Time 1】                                              | 【Communication Time 2】                                  |
|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| S1: What do you want to do on weekend?                              | S2: What do you want to do on weekend?                  |
| S2: I dance with my friend.                                         | S3: I want to play baseball.                            |
| S1: What do you want to do on weekend?                              | S2: *1Oh, me too, me too. Baseball is cool.             |
| S2: Uh...I want to do... (ジェスチャーをする) do book....<br>「読む」って何て言うんだろう。 | S3: I love baseball.                                    |
| S1: book...「読む」って何て言うんだろうね。<br>答え方わかんないね。                           | S2: *2Are you a baseball fan?                           |
| S2: I do.... (ジェスチャーをする) ...後で調べてみる。                                | S3: Yes. Are you a baseball fan?                        |
|                                                                     | S2: Yes. I like Tigers.                                 |
|                                                                     | S3: *1Oh, good! Ah...what do you want to do on weekend? |
|                                                                     | S2: *3I want to read book.                              |
|                                                                     | S3: Oh good. Do you like book?                          |
|                                                                     | S2: Yes.                                                |

\*1: 相手の言ったことに対して、同意をしたり、相づちを打つことができています。  
\*2: 既習の文法事項を用いて、話題を広げようとしている。  
\*3: Communication Time1では言うことができなかった表現を言うことができています。

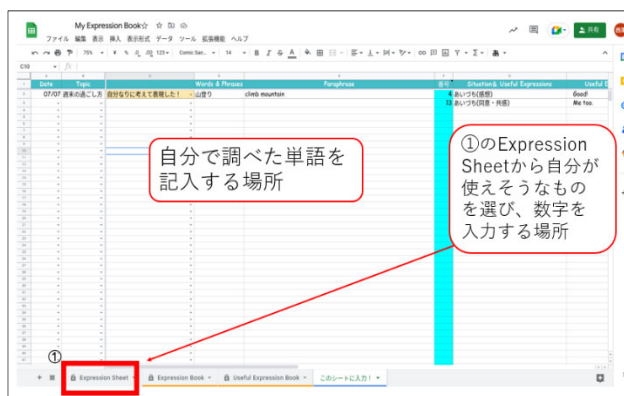
【資料13】 Communication Time1と2における生徒の対話の比較分析

さらに、Communication Time 1 で言いたかった表現を日本語で記入させ、教科書やタブレット端末を使用して調べさせた。ある生徒は小学校の時の Picture Dictionary を使用して「練習する」の動詞を調べ“practice”と My Expression Book に記入していた。

### イ 考察

生徒の振り返りによると、「相づちの表現をたくさん知ることができた」「対話の続け方がわかった」「自分が言いたいことを調べることができた」とあったことから、様々な対話の表現を示すことで、表現の幅が広がったことがわかった。実践1では改良前の My Expression Book を使用していた。そのため、記入するに当たって、自分で調べて書くという点では、【資料14】のようにいくつものシートを行き来したり、入力する場所が複数あったりすることで複雑になっていた。使い方が難しかったため、うまく活用することができなかった生徒が多かった。

また、使う機会や時間を十分に確保することができなかったため、入力するだけにとどまったり、あまり使用できていなかったりした生徒がいた。今後は使用する機会の設定と内容の検討が必要であるとする。



【資料14】実践1で使用した My Expression Book

### (3) 全体考察

#### ① 事前・事後テスト

実践の前後で行った、パフォーマンステストは次のとおりである。

＜事前テスト＞

- ・内容：「自己紹介」
- ・方法：NSと1対1で行う。最初に自己紹介をし、その後NSからの質問に答える。

＜事後テスト＞

- ・内容：「自分の班で調べた夏の○○Best 3をNSに伝える」
- ・方法：NSと1対1で行う。最初にプレゼンテーションを行い、自分たちが調査したテーマについてNSに質問をしてやり取りをする。

#### ○ 評価の観点

【資料15】に示すように、実践前後で共通の各項目3点満点で設定した。設定する際には、NSや教科担任と打ち合わせた。

|       |               |
|-------|---------------|
| 発表    | 文の正確さ         |
|       | 流暢さ・読むスピード    |
| 質問/答え | 質問/答えの正確さ     |
| 全体    | 発音            |
|       | アイコンタクト/声の大きさ |
|       | 話そうとする態度      |

【資料15】事前・事後テストの評価の観点

|    | 文の正確さ | 流暢さ・<br>スピード | 答え<br>質問の正確さ | 発音  | アイコンタクト<br>声の大きさ | 話そうと<br>する態度 |
|----|-------|--------------|--------------|-----|------------------|--------------|
| 事前 | 2.6   | 2.5          | 2.7          | 2.8 | 2.4              | 2.8          |
| 事後 | 2.4 ↓ | 2.5          | 2.5 ↓        | 2.8 | 2.8 ↑            | 3.0 ↑        |

(n=47)

【資料16】事前・事後テストの比較

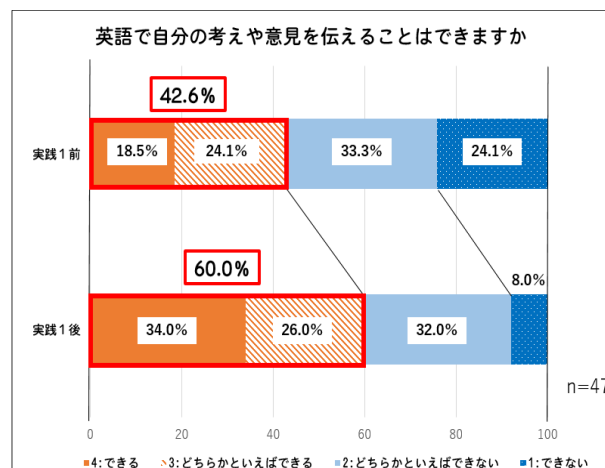
#### ○ 結果

事前・事後テストの平均値を比較したものが【資料16】である。

実践後の数値が下がっている項目に関しては、各班のタスクの難易度によって、発音が難しい単語があったり、難しい文章でプレゼンテーションを作成したりしていたことが原因と考えられる。「アイコンタクト/声の大きさ」と「話そうとする態度」の数値が上がっているのは、何度もプレゼンテーションをしたり、言語活動を2回行ったりしたことが要因であるとする。

#### ② アンケート

「英語で自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対して「どちらかといえばできる」「できる」と答えた生徒の割合が【資料17】に示すように、42.6%から60.0%まで増えた。増えた生徒の理由は、「班活動で、わからないことを聞きながらできたから」や「自分の知っている単語や表現で伝えることができたから」「自分が気になることを調べて伝えられたから」というものであった。また、「できない」と答えた生徒が24.1%から8.0%に減っていた。理由としては、「苦手だったけれど、何度も練習して言えるようになったから」というものであった。



【資料17】アンケートの結果①

さらに「英語を使って思いや考えを積極的に伝えようとしているか」という質問には、【資料19】のように81.4%から84.0%に上がった。このことから、積極的に伝えようとはしているが、英語の表現がわからず、自信のなさから、間違いを恐れて英語で話すことに消極的になっていたことがわかる。



○ 生徒A

事後テストにおいて、授業中に何度も練習することができたため、【資料 22】に示すように事前テストに比べると発話量が増え、赤字で示すような反応を返すことができていた。また、NS との質疑応答においては、相づちをしていたり、うなずいたりしていて、コミュニケーションへの意欲を見取ることができた。振り返りにも、「表現集 (My Expression Book) の単語を使うことができた。そしてたくさん練習をして自信がついたので、言うことができた」と記述していた。

【資料 20】 抽出生徒 A の実践前後の変容

【資料 21】 抽出生徒 A のパフォーマンステストにおける  
項目別の点数比較

【資料 22】 抽出生徒 A のパフォーマンステスト比較分析

【資料 23】 抽出生徒 A の My Expression Book

○ 生徒B

【資料 24】 【資料 25】 は実践前後での生徒Bのパフォーマンステストとアンケートの比較である。事前テストでは、質問に対して文章ですぐに反応し、答えることができていた。事後テストにおいては、【資料 26】に赤字で示しているようにNSの答えに対して、相づちをすることができていた。

振り返りには「表現の仕方や、文のつなげ方、聞く力などが上達しました。コミュニケーションを取りながらインタビューをして、聞き取って誰かに届けることができたので良かったです。（中略）みんなのテーマの発表を聞いて理解することができたので良かったですと思います。何回も発表したので、NSの先生にあまり緊張せずに伝えることができました。これから色々な表現や文章を使って英語を話していきたいです」と記述していた。また、アンケートでは、「英語の授業に限らず、自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対して、1「できない」から2「どちらかといえどできない」に上がっていた。理由は「もしかしたら間違ってるんじゃないかとか不安で発表できない」から「沢山の人の前で意見を言うことは苦手だけれど少人数の前では意見を言えます」と変化していた。

パフォーマンステストの得点での変化は見られなかった。理由としては、英語を話す意欲はあったが、NSと1対1の状況で緊張し、不自然な間をあけてしまっていたことや、相づちなどの返答はできていたが、緊張からか、声が小さく聞き取りにくい部分があったことが挙げられる。これらのことから、パフォーマンステストでの得点が伸びなかったのではないかと考える。

以上のことから、複数回言語活動を設定することで、生徒が積極的に対話を続けたり、自分の考えを伝えることができていく意欲の向上につながった。生徒Bに対しては、今回の実践では情意面以外の部分では変化を見取ることができなかった。【資料 27】は生徒BのMy Expression Bookである。単語帳としてはほとんど活用ができていなかったが、相づちの表現を書き溜めている様子が見られた。また、書き溜めた表現を使うことができていたので、相づちを確認するための表現集としての活用ができていた。

|                              | 事前     | 事後     |
|------------------------------|--------|--------|
| パフォーマンステスト                   | 16/18点 | 17/18点 |
| アンケート<br>「英語で自分の意見を言うことができる」 | 1/4    | 3/4    |

【資料 24】 抽出生徒Bの実践前後の比較

|    | 文の正確さ | 流暢さ<br>スピード | 答え/<br>質問の正確さ | 発音 | アイコンタクト/<br>声の大きさ | 話そうと<br>する態度 |
|----|-------|-------------|---------------|----|-------------------|--------------|
| 事前 | 2     | 2           | 3             | 3  | 3                 | 3            |
| 事後 | 3     | 2           | 3             | 2  | 3                 | 3            |

【資料 25】 抽出生徒Bのパフォーマンステストにおける  
項目別の点数比較

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【事前テスト】「自己紹介」</p> <p>NS: Hello.</p> <p>B: Hello. My name is B. I like ...I like music. I can drawing picture. (8秒無言)</p> <p>I'm from Japan.</p> <p>NS: OK. When is your birthday?</p> <p>B: My birthday is October second.</p> <p>NS: Good. Thank you very much.</p> <p>B: (うなずきながら、動揺している)</p> <p>NS: Thank you very much.</p> <p>B: Thank you.</p> | <p>【事後テスト】「夏のベスト3の紹介」</p> <p>B: We will present to you the top 3 of favorite summer festival foods of class5. No.3. Candy apple. 2 people choose it. No.2. Takoyaki and shaved ice. 5 people choose it. No.1. Yakisoba. 6 people choose it. ...I like candy apple too. It's delicious.</p> <p>NS: Oh, I think so too.</p> <p>B: (無言)</p> <p>NS: ...Do you have any questions to me?</p> <p>B: What is your favorite food for the summer festival?</p> <p>NS: I like Takoyaki. I love octopus.</p> <p>B: Oh, it's good. Thank you.</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

【資料 26】 抽出生徒Bのパフォーマンステスト比較分析

| Date  | Topic   | Words & Phrases | Paraphrase         |
|-------|---------|-----------------|--------------------|
| 07/07 | 週末の過ごし方 | 自分なりに考えて表現した！   | 山登り climb mountain |

| 番号 | Situation & Useful Expressions | Useful Expressions | Meaning |
|----|--------------------------------|--------------------|---------|
| 4  | あいづち(感想)                       | Good!              | いいね!    |
| 13 | あいづち(同意・共感)                    | Me too.            | 私もです。   |

【資料 27】 抽出生徒BのMy Expression Book

#### ④ 成果

○ 単元のタスクにインタビューをして発表するという具体的な活動を入れたため、生徒もスムーズに活動することができた。また、NSに英語で伝えたり、生徒自身の答えを求めるものであったりと、自己表現力を高める四つの要素を踏まえたタスクを設定したことは、生徒が主体的に活動に取り組むことができたので効果があった。

○ Communication Time 1・2において同じテーマの活動を複数回行うことで、生徒が英語を話す機会を多く取ることができ、発話量を増やすことができた。

#### ⑤ 課題

● タスクの設定の際に、自由度を重視したあまり、難易度の設定や条件設定が不十分であった。そのため、生徒の中にはあまり活動に参加することができない生徒もいた。次の実践では難易度を調整するために教師が介入をすることが必要であると考え。

● 全体として、事前テストと事後テストで大きな変容が見られなかったことは、Communication Time 2を充実させることができなかったことが原因として考えられる。Communication Time 2の中でペアを変えて複数回練習するなど、英語を話す機会を多く設け、Communication Time2の時間を充実させたい。

● My Expression Bookをうまく活用させることができず、語彙や表現を十分に増やすことができなかった。自分が使える、なおかつ相手も理解ができる表現を溜めることができていなかった。語彙や表現を増やすためにも、作成させる時間を確保し、活用させるための手だてを講じていきたい。

## 7 研究の実践 実践2（12月実施）

### 第1学年

#### 単元名「高校生に知ってほしい人物やキャラクターを紹介しよう」

#### (1) 実践2のねらい

##### ① 研究のねらい

実践1を受けて、本実践では以下のことを重視し、その有効性を明らかにする。

- ・生徒のレベルに合わせたタスクの設定
- ・Communication Time 2の時間の充実
- ・改良した My Expression Book の活用

##### ② 単元の目標

高校生に知ってほしい人物やキャラクターについて紹介するために、適切な組み立てと表現で高校生に知ってほしいことをまとめ、伝えることができる。

##### ③ 単元計画（8時間）

| 学習活動                                     | 配時 |
|------------------------------------------|----|
| 1 学習課題を確認し、自分が紹介したい人物について検討する。           | 1  |
| 2 紹介文を書くために必要な語彙や表現を習得する。                | 4  |
| 3 高校生にその人のよさが伝わるように、紹介カードを作り、紹介しようとしている。 | 2  |
| 4 高校生に向けて、自分が紹介したい人物を紹介する。               | 1  |

#### (2) 実際と考察

##### ① タスクの設定

###### ア 実際

タスクは以下のように設定した。

- ・単元全体のタスク

「高校生に知ってほしい人物やキャラクターを紹介しよう」

実践2では終末に福岡第一高等学校国際科の生徒に來校してもらい、実際に英語で人物やキャラクターを紹介する場を設定した。事前に高校生に中学生へのビデオメッセージの作成を依頼し、生徒のタスクに取り組む必然性を高めた。

このタスクは【資料28】のように、【資料6】（P2）で示した「自己表現力を高める四つの要素」と関連性をもたせた。

|       |                                                    |
|-------|----------------------------------------------------|
| 必然性   | 国際科の留学生も含めた高校生に伝える場を設定した                           |
| 具体性   | 生徒に活動内容を具体的にイメージさせるために高校生からビデオメッセージをもらった           |
| 自己関連性 | 自分に関連したことを伝えるために自分の好きな人物やキャラクターについて紹介するというテーマで設定した |
| 自由度   | 主体的にタスクを進めさせるために自分の紹介したい人物を自由に選ばせた                 |

【資料28】単元のタスクと四つの要素との関連性

## イ 考察

実践中の振り返りや実践後に行ったアンケートで「高校生に伝えることが目標だったので頑張れました（必然性）」「高校生からのメッセージを見て、どんなことをするのかイメージできた（具体性）」「自分の好きなキャラクターを選んで、その人のことを知ってもらえて嬉しかった（自己関連性）（自由度）」といった記述が見られた。これらの記述から、必然性や自己関連性のあるタスクの設定によって自分の考えを伝えた達成感を味わうことができたと考えられる。

#### ② 1単位時間の学習過程の工夫

##### ア 実際

第4時では「自分の家族を紹介しよう」という言語活動のテーマで行った。

まず、Communication Time 1を行う前に、単元のタスクを確認した。その中で、三人称単数を主語とする一般動詞の文を使った紹介文を作成することの必要性に気付かせ、自分の身近な家族を紹介する文章を作成し、相手に伝えることを1時間のタスクとして設定した。そして自分が表現したいことが英語で表現できないことを把握させるために、ペアで家族の紹介をする Communication Time 1を行った。生徒に紹介の流れを知らせるために、教師のモデルを示し、使用した文章をスライドで提示し、一般動詞の使い方についても確認した。生徒には、家族の中で誰を紹介するか、どのようなことを紹介するか1分間で考えさせ、その後ペアに1分間で紹介させた。また、伝える際はモデル文を参考に伝えることを指示した。

ここでは【資料29】の対話のように、相手に伝えてみようという姿は見られたものの、対話が止まっていたり、日本語を使ったりしていた生徒がいた。

次に、自分に足りない知識やタスクに必要な表現を繰り返し練習する Production Time を行った。その際は、後述する My Expression Book を活用した。

最後に、自分が伝えたいことが伝わったという達成感を味わわせるために、再度自分が紹介したい家族をペアに紹介する Communication Time 2を行った。Communication Time 1と同じペアで1回、ペアを変えて1回の計2回行った。活動が終わった後、ペアで英語が伝わったかどうか、もっと良い表現がないか、など感想を言い合う時間を設けた。

| 【Communication Time 1】 |                                 |
|------------------------|---------------------------------|
| A :                    | Hello.                          |
| B :                    | Hello.                          |
| A :                    | I'll tell you..... ?            |
| B :                    | about                           |
| A :                    | about ....my sister.            |
| B :                    | え？sisterいたっけ？sisterを変えないと。      |
| A :                    | あーいない...じゃあお母さん。                |
| B :                    | お母さんは英語で？                       |
| A :                    | うーん....                         |
| B :                    | Mom.                            |
| A :                    | My mom. She is active...active. |
| B :                    | お母さんactiveなの？                   |
| A :                    | うーん...active？って何かな....          |
| (ここで時間切れ)              |                                 |

【資料29】Communication Time 1における生徒AとBの対話

## イ 考察

Communication Time 1 では、生徒の発言として「うまく言えなかった」「全然終わらなかった」といった発言があり、【資料 30】の生徒の対話と照らし合わせると、自分が表現したいことが英語で表現できないことを把握させることに有効であったと考える。Communication Time 2 では、【資料 30】のように、Communication Time 1 の時よりも発話量が増え、相づちなどもしている様子が見られた。

そして、Communication Time 1 と 2 で何か自分の中で変化があったかという質問に対しては、「同じペアの人に言った時に前に言えなかったことが言えるようになった」とや、新しいペアに言う際、「前よりはうまく言えたと思う」といった発言が見られた。これらのことから、Communication Time 2 の中で言語活動を複数回設けたことにより、自分が伝えたいことに対して自信をもって伝えていると考える。

また、【資料 31】は、ペアを変えた後の生徒の対話の様子である。この生徒の赤字（\*1）の発言は、前のペアが言った表現を自分の表現に付け加えて伝えている。Communication Time 2 では、【資料 31】の生徒のように、新しい表現に気付くことに有効であった生徒もいたと考える。

### 【Communication Time2】（最初と同じペア）

B : Hello. I'll tell you about my mom.

She is kind. She likes cooking.

She doesn't like insect... 虫...

She has four children. They are nice.

I like them very much.

A : Oh, good. That's nice.

(交代)

A : Hello, I'll tell you about my mom.

She is quiet... クイード？

B : Quiet?

A : She is quiet. She likes walk.

B : Fork? Walk?

A : Walk. 歩くこと

B : OK.

A : She likes bread. She go bakery.

【資料 30】 Communication Time2 における A と B の対話

### 【Communication Time 2】（ペアを変更）

A : Hello. I'll tell you about my mom.

She is quiet. She likes walk. She likes bread.

She go... goes to bakery.

\*1 She has two children.

I like mom very much.

S3: OK.

【資料 31】 Communication Time 2 における A と B の対話

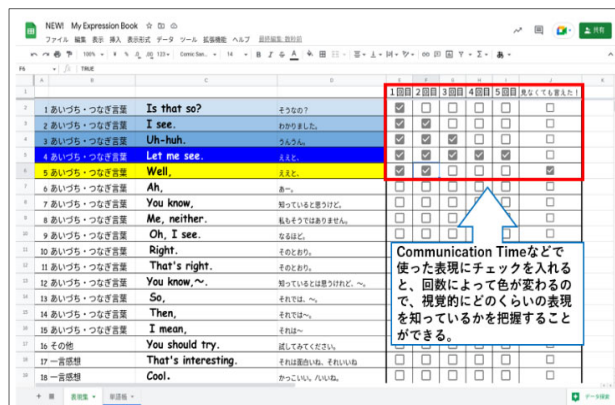
## ③ My Expression Book の活用

### ア 実際

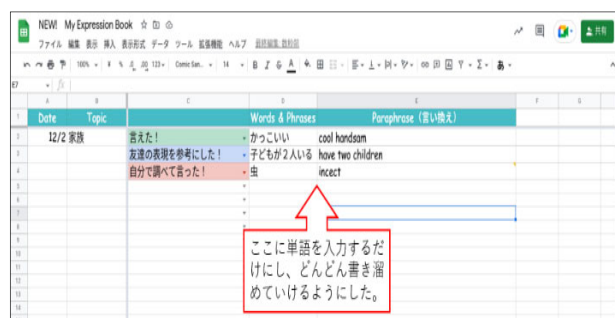
実践 1 では使い方が複雑で活用するところまではいかなかったため、改良したものを使用した。生徒が自らの程度、表現を使えているかを視覚的にわかりやすくするために、【資料 32】のように「表現集」のシートを作り、相づちなどの表現の横にチェックボックスを設けた。また、自分が調べた表現を記入しやすくするために、【資料 33】のように「単語帳」のシートを設け、入力場所を一箇所にした。さらに、記入した単語が間違っていた場合は、【資料 34】のように教師がコメントで修正を行った。

Communication Time 2 においては、自分の調べた表現を確認したり、相づちなどの表現を確認させたりするために、My Expression Book を使用するように促した。

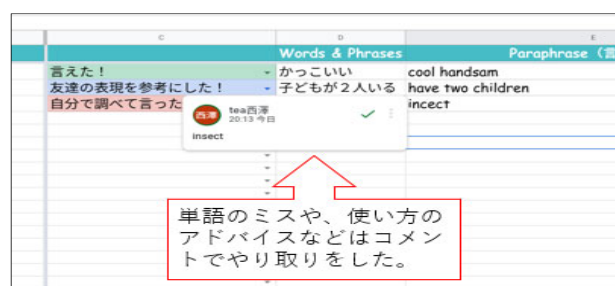
Production Time では、My Expression Book を使用するに当たって、Communication Time 1 で言いたかったけれど言えなかった表現を書き出させた。その後、教科書の本文や巻末資料、小学校の時に使用していた教材など、自分が持っている教材



【資料 32】 改良した My Expression Book（表現集）



【資料 33】 改良した My Expression Book（単語帳）



【資料 34】 My Expression Book でコメント機能を使用してアドバイスをしている様子

から調べるように伝えた。教科書などに載っていない表現は Google 翻訳などの翻訳サイトを活用しても良いことにした。そして、調べた表現を My Expression Book に記入させた。

### イ 考察

生徒の振り返りには、「My Expression Book を使って相づちの表現をうまく伝えることができた」や、「対話が続くようになった」という記述があった。また、【資料 35】のように、次回の活動への意欲や、英語の表現を増やそうとする意欲が高まったことがわかる。

OKや good などの表現が少し使えるようになったので、よかったと思います。今日使った表現を次の授業にも生かしていきたいなと思います。それとまた新しい単語を覚えていきたいなと思います。

#### 【資料 35】生徒の振り返り

また、生徒への聞き取りを行ったところ、「My Expression Book で積極的に相づちを打つことができた。これを見ながら、その場面に合った言葉を選ぶことができた。さっきの対話 (Communication Time 2 での対話) でも結構頭が真っ白になって質問ができなかったけど、これで上手くつなげられたので、本物の時にもそういう時があると思うから、今のうちにこういうものを身に付けたいと思ったから」と発言していた。

さらに、1 学期に使用したものと、2 学期に改善したものの使用率を比較すると、表現集の使用率は 36.0% から 88.0% に、単語帳の使用率は 59.0% から 85.0% まで上がった。生徒に、My Expression Book をどのようにして活用したかのアンケートを取ると、表現集として使ったと答えた生徒が 71.4%、単語帳として使った生徒が 28.6% いた。表現集として使った生徒の理由には、「自分がどれだけ言えたかが色が変わってわかりやすいから」「相づちの選択肢がたくさんあったのですぐに相手の言ったことに反応することができた」とあった。また、単語帳として使った生徒の理由には、「書き溜めることによって思い出しやすくなったから」「調べて書き溜め

たものをしっかり対話で出すことができたから」というものであった。ただ、「My Expression Book をあまり活用することができなかった」と答えた生徒の理由には、「使う暇がなかった」「書き溜めた単語を使えているかわからなかったから」「あまり変わらなかったから」とあり、前回と比べて使ってはいたが、My Expression Book の効果を実感することができていなかった生徒もいたことが明らかとなった。

これらのことから、My Expression Book を使用することは、対話が続ける選択肢が増え、対話が続けようとする意欲につながったことから有効であった。しかし、単語帳としての効果を実感できた生徒が少なかったため、長期的に使用した場合の検証が必要であると考えます。

### (3) 全体考察

#### ① 高校生との交流

福岡第一高等学校の生徒 19 名に来校してもらい、4～5 名の班に 1～2 名入り、交流をした。生徒が自分のプレゼンテーションをした後、高校生から質問やコメントをもらい、その後フリートークの時間を設けた。高校生の英語が聞き取れずに、“Could you say that again?” と聞き返したり、自分の言いたいことをなんとか伝えようとしたりする姿が見られた。

【資料 36】は高校生と生徒のやり取りの一例である。

生徒の振り返りには「対話に詰まった時に、質問などをしてくれた」「何と答えたらよいか分からなかったときに、例とかを出してくれたから助かった」「自分たちがわかるような単語で話してくれたから、何と言っているかわかった」「反応してくれたので、話しやすかった」などとあった。これらのことより、実際に英語しか話すことのできない場面で英語でコミュニケーションを取ることができた経験が伝わったという達成感につながり、生徒が英語で自分の意見を伝えようとする意欲につながったと考える。

HS1: Ah.. Do you have any questions?  
HS2: In the future, what country do you want to go?  
S5: Ah.. I want to go to America.  
S6: America  
S7: Ah... Germany  
HS1: I really want to go to England.  
Ah.. What is your favorite movie?  
S5: I like "Tonari no Totoro".  
S6: I like "Avengers".  
HS1: Oh, Avengers. What is your favorite super hero?  
S6: Uh...  
HS1: My favorite super hero is Spiderman.  
S6: Oh, me too!  
HS2: Iron man.

HS1: Yeah, What is your favorite movie?  
S7: My favorite movie is One Piece.  
HS1: What is your favorite movie?  
HS2: "Avatar".  
HS1: Oh, Avatar! Do you know Avatar?  
S5: Ah... sorry I don't know.  
HS1: It's an really old movie?  
HS2: Yeah, it's old.

HS1・HS2⇒高校生  
S5～7⇒中学生

#### 【資料 36】高校生とのフリートークの対話

## ② 事前・事後テスト

実践の前後で行った、パフォーマンステストは次のとおりである。

＜事前・事後テスト＞

- ・内容：「1分間フリートーク」
- ・方法：NSと1対1で行う。テーマは教科書の巻末にあるとじ込み資料の“This is me.”から質問を選び、それについて対話をする。

### ○ 評価の観点

【資料 37】で示すように、実践前後で共通の各項目 5 点満点で実施した。設定する際には、NS や教科担任と打ち合わせをした。

実践 2 の前後での変化は、【資料 38】のとおりである。各項目とも、点数が上がっており、生徒の発話量が増えていたり、対話を続けようとしたりする姿勢が見られた。

また、言えない単語もジェスチャーや自分が知っている単語で何とか伝えようとする姿も見られた。

| 質問 | 答えの正確さ        |  |  |  |
|----|---------------|--|--|--|
|    | 発音/流暢さ        |  |  |  |
| 全体 | アイコンタクト/声の大きさ |  |  |  |
|    | 話そうとする態度      |  |  |  |

【資料 37】評価の観点

|    | 答えの正確さ | 発音/流暢さ | アイコンタクト/声の大きさ | 話そうとする態度 |
|----|--------|--------|---------------|----------|
| 事前 | 3.3    | 3.1    | 3.4           | 3.6      |
| 事後 | 4.4 ↑  | 4.8 ↑  | 4.9 ↑         | 4.9 ↑    |

(n=47)

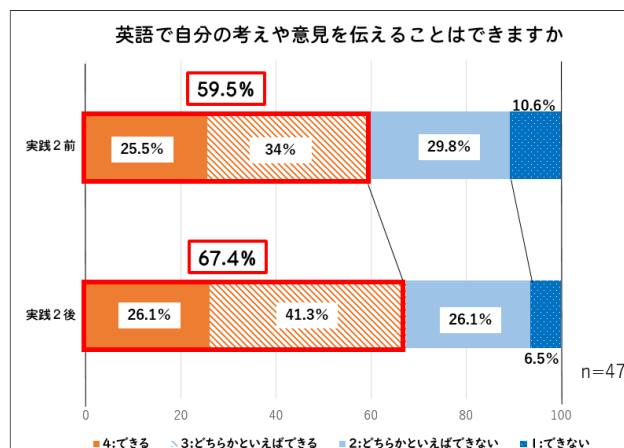
【資料 38】実践前後でのパフォーマンステストの結果

## ③ アンケート

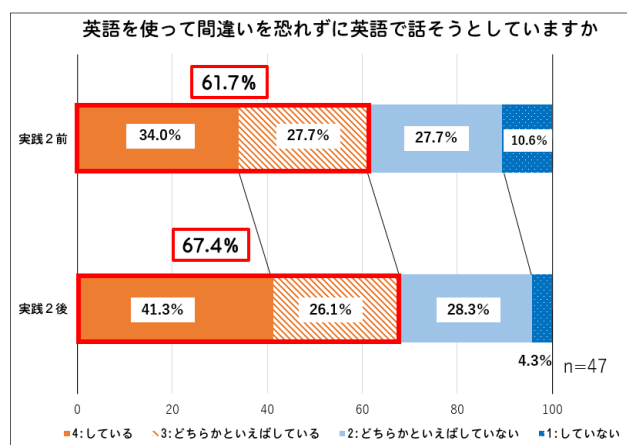
「英語で自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対して、「どちらかといえばできる」「できる」と答えた生徒の割合が【資料 39】に示すように、59.5%から 67.4%まで増えた。増えた生徒の理由は、「高校生に自分の考えを伝えることができたから」や「自分の知っている単語や表現で伝えることができたから」「英語で自分の考えや気持ちが伝わったから」というものがあつた。

また、「今回の授業で、自分の考えを英語で伝えることはできましたか」という質問に、肯定的な回答をした生徒は 89.2%であつた。理由としては、「高校生に自分が知っている単語やジェスチャーで気持ちを伝えることができた」「高校生と対話をするときに、どうしてもわからない単語はタブレット端末で調べて伝えたが、高校生がわかってくれたのでうれしかった」「高校生がうなずいてくれたり、質問をしてくれたりして、自分の英語を理解してくれようしていたから伝えることができた」などというものであつた。さらに、【資料 40】【資料 41】に示すように、今回、福岡第一高等学校国際科の生徒との交流が、生徒の英語を話そうとする意欲や、英語で伝えたいという意欲につながつた。これらのこと

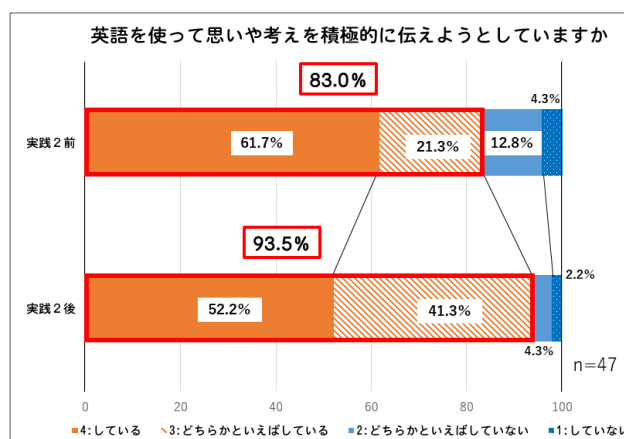
から英語で自分の考えや気持ちを伝えることができたことで、生徒は自信をもち、英語でコミュニケーションを取ることができたという達成感を味わうことができたと考える。また、これらのアンケートで「できない」や「していない」と答えた生徒の理由は、「高校生が話す英語が速くてついていけなかった」「ジェスチャーで伝えたが、うまく英語を話せなかった」などであつた。



【資料 39】アンケートの結果①



【資料 40】アンケートの結果②



【資料 41】アンケートの結果③

## ④ 抽出生徒の変容

### ○ 生徒A

事前テストにおいて、NSの質問に対してほとんど答えることができなかった。生徒Aに聞き取りをすると「自分が言

いたいことを表現する前に、NSから何を聞かれているのかわからず、答えることができなかった」と話していた。その後、授業内で、My Expression Bookにて聞き返しの表現を示した。授業内では、“Excuse me?”と何度か使うことができていたが、高校生との交流の際には、班活動であったため、聞き返しの表現を使う機会がなかった。ただ、My Expression Bookの中で“That’s nice.”にチェックを入れており、高校生との交流会のときに使っている様子があった。交流の感想には【資料 42】のように英語が伝わったという達成感を味わうことができていたと考える。

【資料 43】は生徒Aのパフォーマンステストとアンケートの変容である。また、【資料 44】【資料 45】は生徒が作成した My Expression Book である。単語帳の部分に Communication Time 1 の時に言うことができなかった“quiet”を記入し、Communication Time 2 の際に使用していた。相づちの表現で授業中に使うことができていた表現“Well.”をパフォーマンステストにおいても使用していたことから、My Expression Book を使って言語活動を行ったことは、生徒Aの表現の幅を広げることにつながったことがわかる。【資料 46】はパフォーマンステストにおける対話の比較である。下線部は My Expression Book で生徒が記入していた単語や、使えていた表現である。

アンケートや振り返りから、実践1と比べ、言語活動を複数回設け、話す機会をたくさん取ったことが、生徒Aの英語を話す意欲を上げることににつながったと考える。

難しく聞き取れなかった単語もあったけど、高校生が言い直してくれたり、例を出してくれたからなんて言っていたかわかりました。答える時もドイツの英語がわからなかったけど、色々と言っていたら高校生が分かってくれて、英語を教えてくれたから嬉しかった。

【資料 42】生徒Aの記述

|                              | 事前    | 事後     |
|------------------------------|-------|--------|
| パフォーマンステスト                   | 4/20点 | 14/20点 |
| アンケート<br>「英語で自分の意見を言うことができる」 | 1/4   | 3/4    |

【資料 43】生徒Aの実践前後の変容

|                             | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目 | 5回目 | 6回目 | 7回目 | 8回目 | 9回目 | 10回目 | 11回目 | 12回目 | 13回目 | 14回目 | 15回目 | 16回目 | 17回目 | 18回目 | 19回目 | 20回目 |
|-----------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 5 あいづち・つなぎ言葉 Well,          |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 6 あいづち・つなぎ言葉 Ah,            |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 7 あいづち・つなぎ言葉 You know,      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 8 あいづち・つなぎ言葉 Me, neither.   |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 9 あいづち・つなぎ言葉 Oh, I see.     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 10 あいづち・つなぎ言葉 Right.        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 11 あいづち・つなぎ言葉 That's right. |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 12 あいづち・つなぎ言葉 You know, ~.  |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 13 あいづち・つなぎ言葉 So,           |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 14 あいづち・つなぎ言葉 Then,         |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 15 あいづち・つなぎ言葉 I mean,       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 16 その他 You should try.      |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 17 一言感想 That's interesting. |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 18 一言感想 Cool.               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 19 一言感想 Good!               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 20 一言感想 That's nice!        |     |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |

【資料 44】生徒Aの My Expression Book①（表現集）

| A     | B      | C               | D              |
|-------|--------|-----------------|----------------|
| Date  | Topic  | Words & Phrases |                |
| 11/25 | 動物     | 自分で調べて言った！      | 耳 ear          |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 足 leg          |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 首が長い long neck |
|       |        | 言えた！            | 大きい big        |
|       |        | 友達表現を参考にした！     | 小さい small      |
|       |        | 自分で調べて言った！      | きれいな clean     |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 汚い dirty       |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 硬い hard        |
| 11/28 | クイズ    | 自分で調べて言った！      | 柔らかい soft      |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 重い heavy       |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 軽い light       |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 熱い hot         |
| 12/1  | 外国の子ども | 自分で調べて言った！      | 冷たい cold       |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 長い long        |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 短い short       |
| 12/2  | 家族     | 自分で調べて言った！      | うるさい loud      |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 静かな quiet      |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 古い old         |
|       |        | 自分で調べて言った！      | 新しい new        |

【資料 45】生徒Aの My Expression Book②（単語帳）

#### 【事前テスト】

NS: Hello.

A: Hello. How are you?

NS: Good, thank you. And you?

A: I'm fine thank you.

NS: What club are you in?

A: (10秒無言)

NS: What sport do you like?

A: Ah...(10秒無言)

NS: Umm...sport.

A: Baseball.

NS: What subject does Mr. Tanaka teach?

A: (10秒無言)

NS: Ok, thank you.

#### 【事後テスト】

NS: Hello.

A: Hello. How are you?

NS: Fine, thank you. And you?

A: I'm fine thank you.

NS: Ok, let's start. What subject do you like?

A: Ah... I like English. How about you?

NS: I like Social studies. And what time do you usually get up?

A: Ah...get up...

NS: Yes, what time? I get up at 6.

A: Oh, well... 7?

NS: Ok. What subject does Ms. Munakata teach?

A: ... Japanese?

NS: Ok, thank you.

【資料 46】生徒Aのパフォーマンステストの比較



## ⑤ 成果

- タスクの設定をする際に、高校生と交流をするという場を設定したこと、高校生からのビデオメッセージなどもあったことから、具体的に高校生に伝えるイメージをもたせやすかった。
- Communication Time 2 でペアを変えて 2 回同じ活動を行ったことは、生徒の表現の幅を広げたり、英文を言い直したりと自己調整をしながら英語を話すことができていた。
- My Expression Book を改良したことで、生徒は様々な語彙や表現に触れることができ、自分がどの程度、語彙や表現を使うことができているかを把握することができていた。

## ⑥ 課題

- 英語が苦手な生徒は My Expression Book (単語帳) の活用があまり進まなかった。英単語の入力に時間がかかり、練習の時間が確保できていなかったことが原因と考えられる。
- My Expression Book に関しては、今回は使用する機会を確保し、活用することができていたが、単語帳としての活用ができていのかどうかまでは、究明することができなかった。今後は長期的に使用して、単語帳としての効果の検証を行いたい。

## 8 研究のまとめ

### ① タスク

今回、実践 1 と 2 で単元のタスクを設定した。これらのタスクを通して、生徒は感想に「自分の言いたいことを英語で伝えることができた」「クラスの人好きなものを知ることができて楽しかった。自分の感想も英語で伝えることができてうれしかった」などを書いており、自己表現力を高めることができた。

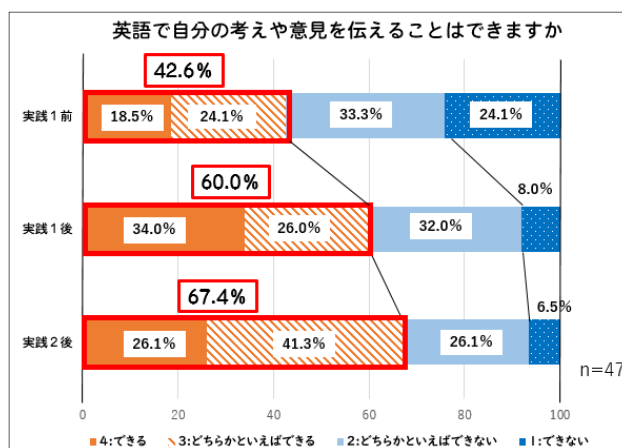
1 単位時間においてもタスクを設定したが、毎時間【資料 6】(P 2) の四つの要素を全て踏まえたタスクを設定することは難しかった。ただ、自己関連性や自由度を踏まえたタスクを設定することは、自分の考えを伝えることにつながるため、この二つの要素を踏まえたことは有効であった。

### ② アンケートから

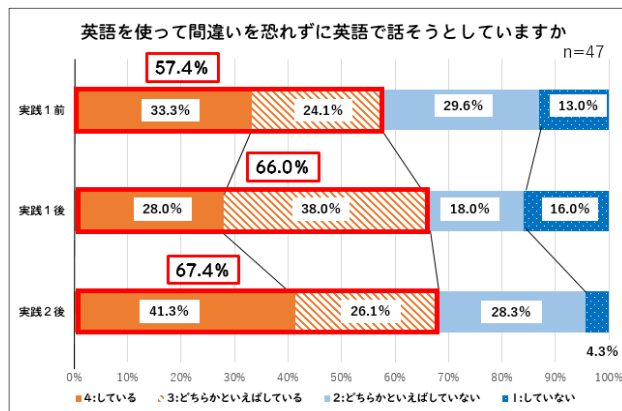
英語で自分の考えを伝えることができるようになったかを、実践 1 の前後、実践 2 の後の結果で比較した。【資料 53】は結果を比較したものである。実践 1 の前では「英語で自分の考えや意見を伝えることはできますか」という質問に対して、肯定的な回答が 42.6% であったが、2 回の実践を経て、67.4% まで上昇した。また、【資料 54】【資料 55】にもそれぞれ肯定的な回答が増加していた。それぞれの回答の理由では、「たくさん英語を話す練習をしたので、自信がついたから」「最初は言えない英語があつてどうしようかと思ったが、色々な単語を調べたことで、英語を話せるようになったから」「自分の英語が相手に伝わったから」などがあつた。生徒に英語で言えないことに気付かせ、言語活動を複数回設けたことは、自信をもって自分の考えを英語で伝えることができたという達成感につながったと考える。否定的な回答をした生徒の理由としては、「まだ英語でしっかりと話すことができ

ないから」「言いたいけど英語で何を言ったらいいかわからないから」というものであった。このことより、英語で話すことに対して意欲はあるものの、英語力の問題で話すことができないと感じていることがわかった。

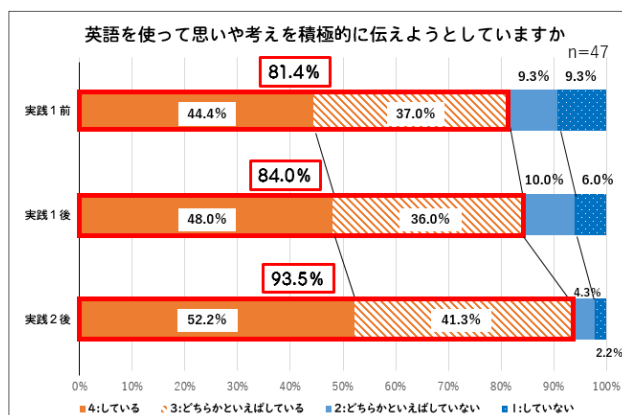
また、「今回の授業で何が役に立ったか」という問いに対する回答は【資料 56】のとおりである。それぞれの理由を【資料 57】にまとめた。言語活動を複数回設けたことで、英語を話す時間が増え、自然と英語を話す機会が増えたことや今まであまり意識できていなかった相づちなどの表現を My Expression Book を通して知られたことが、自分の考えを英語で伝えようとする意欲を高めることにつながったと考える。



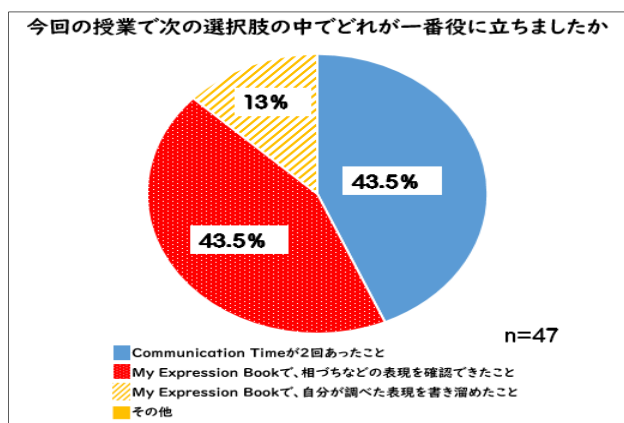
【資料 53】アンケートの結果①



【資料 54】アンケートの結果②



【資料 55】アンケートの結果③



【資料56】アンケートの結果④

|                                       |                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Communication Time が 2 回あったこと         | ・1回目の喋れなかったことが、2回目の時には喋れるようになるという成功体験はとても大きくよかったです。<br>・1回だけだとできないまま終わってしまったり、もっと他の表現を探して話したりすることができないから<br>・わからなかった言葉が話せるようになったとき、とても嬉しいし、自信がついたから |
| My Expression Book で、相づちの表現を確認できたこと   | ・相づちなどの表現を知っていたことで相手の会話をうまく受け止めることができたから<br>・どういう意味かあまりわからなくても、相づちで繋がれて反応がよくできたから                                                                   |
| My Expression Book で、自分が調べた表現を書き溜めたこと | ・自分が調べた表現を My Expression Book で書き溜めたことで高校生と会話するときに役に立った<br>・調べた表現をいつでも見直せたから                                                                        |

【資料57】それぞれの手だてを選んだ理由

## ② 研究の成果

- 【資料6】(P2)の自己表現力を高める四つの要素を組み合わせたタスクを設定したことで、自分の考えを伝えたいという意欲を高めることができた。
- 1単位時間の中で、帯活動と言語活動を関連付け、同じテーマで活動したことで、生徒が英語を話す練習の機会を多くとることができた。また、Communication Time 2 でペアを変えて複数回対話活動を行ったことも効果があった。これらのことから、今まで言えなかった表現を調べ、何度も伝える機会を設けたことで、表現の幅が広がり、生徒が自信をもって英語を話すことができることがわかった。
- My Expression Book で相づちの表現を提示したことで、英語で対話を続けることができる生徒が増え、英語を話すことができるという自信につながった。また、自分だけの表現集を作成したことで、生徒が主体的に英語を話すことができるようになった。

## ③ 研究の課題

- My Expression Book は相づちの表現を確認し、対話を継続させたり、対話を広げたりすることには効果があったが、自分が調べた単語を書き溜めて表現の幅を広げるに関しては不十分であった。また、短期的に使用する場合は対話を継続させることに効果はあったが、語彙を増やすためには長期的な使用が必要であると考えた。
- 英語を苦手とする生徒にとっては、Communication Time 1において何も言うことができず、Production Time の時に何をしたら良いか悩んでいる生徒がいた。今後はモデル文

を示す際のヒントをより多く与えたり、段階的に生徒が自分でレベルを選択したりできるように、言語活動に対する見直しをもたせるための手だてを改善していく必要がある。

## 引用文献

- 1 岡秀夫 他 グローバル時代の英語教育—新しい英語科教育法— P4-5 成美堂 (2011)
- 2 中央教育審議会 幼稚園、小学校、中学校、高等学校および特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について(答申) 【概要】 P1, P22 文部科学省 (2016)
- 3 文部科学省 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編 P6, P54 (2018)
- 4 文部科学省 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 (2019)
- 5 大城賢 小学校外国語活動(仮称)の方向性～「教育課程部会の審議のまとめ」を読み解く～ P41-P42 琉球大学教育学部教育実践総合センター紀要 (2008)
- 6 福岡市教育委員会 第2次福岡市教育振興基本計画 P40 (2019)
- 7 福岡市教育委員会 福岡市英語教育改善プラン P3 (2021)
- 8 Canale, M. From communicative competence to communicative language pedagogy. In J. Richard & R. Schmidt (Eds.), Language and communication PP.2-27 London: Longman (1983)
- 9 田中武夫/田中智聡 「自己表現活動」を取り入れた英語授業 P214, P22-69 大修館書店 (2003)
- 10 胡子美由紀 リレー連載 英語教育時評 「言語活動」再考 英語教育 第71巻第3号 P33 大修館書店 (2022)

## 参考文献・参考資料

- 1 Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. Canale, M. Applied Linguistics (1980)
- 2 ヒューマンな英語授業がしたい!—かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする— 中嶋洋一/池岡慎 研究社 (2006)
- 3 学習意欲の理論 鹿毛雅治 金子書房 (2013)
- 4 小学校学習指導要領解説(平成29年告示) 外国語活動・外国語編 文部科学省 (2018)
- 5 実例でわかる! 中学校英語 パフォーマンステスト&学習評価 瀧沢広人 学陽書房 (2021)
- 6 Here We Go! English Course 1 太田洋 ほか 光村図書 (2022)
- 7 中学校外国語「主体的に取り組む態度」の学習評価完全ガイドブック 松浦伸和 明治図書 (2022)

Google スプレッドシートは、Google LLC の商標または登録商標です。